

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



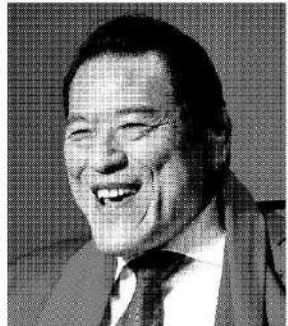
どんな葬式がしたいかと、時々訊かれます。僕は50歳と60歳で生前葬を2回もやっているのので、葬式はもうやりません」と答えています。

なぜ生前葬をやったのか。お世話になった人に、生きているうちに感謝を伝えたいと思ったから。そして自分が60歳まで生きられるなんて想像できなかったから。

僕は10代の時に父親を亡くしていますが、若くして父親を喪失すると、特に男は自分が長生きするようなイメージをもてないのかもしれない。
10月1日にアントニオ猪木さんが旅立ちました。享年79。死因は、心不全との発表です。

最期まで元気に病氣と共存

幼い頃に父を亡くした猪木さんも、5年前の2017年、画国技館で「生前葬」をしました。リングの上に棺桶が置かれて、弟子の藤波辰爾さんが数珠を手に般若心経をしめやかに読経。追悼のゴングが10カウント鳴り終わると、黒スーツに赤いマフラーで決めた猪木さんが颯爽と登場。「千の風になって」を絶唱したかと思えば、棺桶をパンチして破壊。中から闘魂の白い球を取り出



「人は歩みを止め、闘いを忘れた時に老いていく」。数ある彼の名言の中でこの言葉が好きです。

275 アントニオ猪木

猪木さんはこの生前葬の1カ月前に、「全身性アミロイドーシス」の診断を受けていたといえます。
これは、アミロイドと呼ばれるナイロンに似た線維状の異常なタンパク質が、様々な臓器に沈着して機能障害を起こす難病です。身体どこに沈着するかで症状も様々で、心臓に沈着すれば心不全や不整脈が、胃や腸に沈着すれば下痢や便秘や嘔吐や腸閉塞が、神経系に沈着すれば、歩行困難など運動機能障害の症状が現れます。発症のメカニズムも予防法も未だわかっていない悩ましい病です。
御自身の闘病の姿を、猪木さんは隠すことなくYouTubeに

アップし続けました。最後の動画が撮影されたのは死の10日前。最近、欲がなくなってきたと嘆きながらも、まだまだ環境問題について取り組みたいと展望を語り、「敵がいる限り、いいじゃないですか」と微笑みを浮かべていました……生まれてきたからには敵の2人や3人いなくどうするんだ？ とその瞳がカメラに語り掛けています。
「元氣」の反対語は「病氣」ではないのだと気づかされました。元氣と病氣は共存するし、元氣があればなんでもできる。生きることに一日も手を抜かなかった猪木さんは、毎日が生前葬のような人でした。